

授業科目名 <英訳>	文化実践論A Cultural practice A				担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 教授 田中 雅一					
配当 学年	3,4回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2018・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
[授業の概要・目的]											
文化行為論は日常実践に焦点を絞る文化・社会人類学である。そして日常実践を複数の権力が作用するアリーナととらえることで、「未開」、宗教、環境、暴力、ジェンダー、セクシュアリティなどの諸概念を再考する。											
[到達目標]											
一見普遍的と思われる価値観の相対的な性格、あるいは文化・社会依存的な性格について理解を深め、私たちを取り巻く社会状況についての批判的な視点を獲得することを目指す。今年度は、ジェンダーやセクシュアリティ、ジェノサイドなどに関わる暴力や事件を取り扱う。											
[授業計画と内容]											
1-2週)文化人類学の変貌、ジェンダーとセクシュアリティ 3-4週)女性をめぐる二つの言説 5-7週)女性への暴力 サテイー、FGM、名誉殺人 8週) 暴力の文化人類学 9-11週)ホロコースト/負の世界遺産とダークツーリズム 12-14週) ゾンビとフェティシズムの可能性 15週)まとめ 文化人類学と暴力											
[履修要件]											
文化人類学に関するほかの講義を受けていることが望ましい。											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
平常点、とくに小レポートと授業内での発言を評価する。											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
----- 文化実践論A (2)へ続く -----											

文化実践論A (2)

(関連URL)

<http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/~shakti/>(田中雅一のホームページ)

[授業外学習(予習・復習)等]

授業では映像作品の上映や討論が中心となるため、関連する文献や配布資料を授業の前後に読んでおくことが望ましい。

(その他(オフィスアワー等))

使用する映像資料の中には心身にきわめて不快な影響をおよぼすシーンが多出するものも含まれています。鑑賞するかどうか、また上映中の退出は本人の判断に任せます。オフィスアワーは特に設けません。問い合わせやアポイントは shakti@zinbun.kyoto-u.ac.jp で受け付けます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。